

メガバンクの三井住友銀行、地銀の山梨合同銀行、信金の枚方信用金庫・・・
攻める金融の経営トップは何を考えているか

『「型破り」な銀行の新ビジネス戦略 “みずほ”敗因からの教訓』

(著者)浪川攻

(価格)1,650 円 (税込) 〈発売日〉2021年10月22日 〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区 代表取締役:唐津隆)は、新刊書籍『「型破り」な銀行の新ビジネス戦略 “みずほ”敗因からの教訓』を2021年10月22日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

■みずほ銀行「システム大障害」の本当の病巣とは？

本書は、銀行のビジネスモデルが老朽化した歴史的経緯を振り返りつつ、その老朽モデルの老朽たるゆえんを探り、淘汰が始まった銀行業界内の光と影を浮き彫りにする一冊です。

みずほ銀行「システム大障害」は誰が悪いのか。型破りなビジネスモデルで好調な三井住友銀行の秘密とは？ 淘汰が始まった銀行業界の光と影を金融ジャーナリストの浪川氏がレポートしていきます。

営業ノルマにとらわれ、現場の活力を減退させ、システム障害を反省しない「みずほFG」の経営者。かたや、古い金融業のビジネスモデルを捨て、顧客のニーズに寄り添うサービス業への脱皮を図る「三井住友FG」の経営者。メガバンク、地銀、信金まで、経営力と風土・意識改革の格差が生み出した銀行業界内の光と影を、当事者のリアルな声をふんだんに盛り込み、明らかにしていきます。銀行の淘汰が当たり前になる時代 顧客が喜ぶサービスを必死に生み出さねば、生き残れない。そんな時代の銀行の新ビジネス戦略を探る一冊です。



◆目次

プロローグ ● ATM(現金自動預け払い機)が消えてなくなる！？

- 第1章 ● 変貌のチャンス捨てたスルガ銀行
- 第2章 ● 「1960年代型モデル」を引きずる業界
- 第3章 ● みずほ銀行「システム大障害」・本当の病巣
- 第4章 ● 東京・池袋、次世代型店舗のホットゾーン
- 第5章 ● 疾走する三井住友・慎重な三菱UFJ
- 第6章 ● 山陰の地銀、大阪の信金の型破りな挑戦
- エピローグ ● 生き残る条件はアジャイル化

著者：浪川攻

金融ジャーナリスト。1955年東京都生まれ。上智大学卒業後、電機メーカー勤務を経て記者となる。金融専門紙、証券業界紙を経験し、1987年株式会社きんざいに入社。『週刊金融財政事情』編集部でデスクを務める。1996年退社し、ペンネームで金融分野を中心に取材・執筆。月刊誌『Voice』の編集・記者、1998年に東洋経済新報社と記者契約を結び、2016年フリーとなって現在に至る。著書に『銀行員はどう生きるか』『証券会社がなくなる日』(以上、講談社現代新書)、『地銀衰退の真実 未来に選ばれし金融機関』(PHPビジネス新書)、『金融自壊歴史は繰り返すのか』(前川春雄「奴隷」の哲学) (以上、東洋経済新報社)などがある。

【お問い合わせ先】株式会社ビジネス社 広報担当:松矢 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail : matsuyapress@gmail.com 携帯: 09072611982 TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。